

1 次の文章の空欄(1)～(5)にあてはまる言葉をそれぞれ次のア～オから選び、記号で書き入れましょう。(同じ記号は一度しか使えません)

「アイデンティティ」という言葉は「他人とはつきり区別される一人の人間の個性」というような意味で用いられます。

(1) 「自分らしさ」「その人らしさ」というようなニュアンスですが、この言葉は「自己同一性」と訳されることもあります。

ここで言う「同一」とはどういう意味なのでしょう。たとえば、昨日まで正義感が強くて人に優しい性格である彼は、今日も当然同じような個性を持ち続け、明日も同じような性格であり続けることでしょう。日替わりでココロと変わってしまうようなものは「その人らしさ」ではないですね。「同一」とはいわば「一貫性」ということです。

(3) この「アイデンティティ」を確立するには他者の存在が不可欠です。

ある人の個性の中に一貫性を見出し、他の人と区別して認めてくれるのは、その人の周囲にいる他者だからです。「自分らしさ」も他人なくしては成立しないということですね。

(5) 最近は自己中心的な人が増えていることは大変嘆かわしいことです。

ア なぜなら イ ところで ウ それなのに エ わかりやすく言えば オ それでは

2 次の文章の空欄(6)～(10)にあてはまる言葉をそれぞれ次の力～カから選び、記号で書き入れましょう。(同じ記号は一度しか使えません)

米国の文化人類学者であるルース・ベネディクトはその著書『菊と刀』の中で、欧米の文化を「罪の文化」という言葉で説明しました。「欧米人は自分の中にしっかりと確立された良心に基づいて行動を律する」というのです。

(6) ベネディクトは日本の文化を「恥の文化」という言葉で説明しました。

(7) 「日本人は自分の心の中にしっかりととした基準を持たず、他人からの評価を基準として自分の行動を律する」というのです。



(8) 、日本人であるあなたが、何かをやるうとした時に「人から笑われたら嫌だ」などと思って、その行動をやめてしまうことがあるとしたら、それは「恥の文化」を体現していると言っているでしょう。

(10) 『菊と刀』が刊行されたのは一九四六年のことであることも忘れてはなりません。ベネディクトが述べたことが現代の日本人にそのまま当てはまるかどうかは検証の必要がありそうです。

カ ただし

キ まさに

ク すなわち

ケ たとえば

コ 一方で